

2020年度由利本荘市地域農業再生協議会水田フル活用ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

本市は、水田面積に占める水稲作付面積の割合が約7割を占め、うち主食用米の作付面積の割合は約8割という米の主産地である。本市では畑作物に不向きな湿田が多いことや、主食用米と技術や機械が共通しており、取組やすいことなどを背景に、近年、加工用米、備蓄米などの取組が増加してきた。また、飼料用米の需要者からは「安定して供給してほしい」という声があり、今後は、飼料用米の生産拡大も図りながら主食用米の需給調整に取り組む必要がある。

土地利用型作物では、大豆の生産振興を図ってきたが、近年、気象条件に恵まれず、不作が続いたことで生産意欲の減退に繋がり面積は減少傾向にある。そば・なたねについては、不作付地の解消に活用できる有望な作物として、特に、そばの生産拡大が続いている。

飼料作物については、耕種農家と畜産農家の連携による作業受委託により、安定的な生産が行われている。

その他地域振興作物の野菜・花きについては、生産量が少ないものも含めて多品目に渡っているが、特に生産振興を図る品目を選定し産地化を図る必要がある。

いずれにしても、主食用米の消費減少に対応するために、本市においても主食用米から他作物への転換を加速する必要がある。このため、水田をフルに活用し、土地利用型作物の生産性向上や収益性の高い作物の生産などにより収益性を高め、農業経営の安定に結びつけることが最も重要な課題となっている。

2 作物ごとの取組方針等

本市の約9,760haの水田について、適地適作を基本に、産地交付金を有効に活用しながら作物生産の維持・拡大を図る。

(1) 主食用米

米の食味ランキング特Aの継続した獲得に向け、土づくりを基本とした、安全・安心な、高品質・良食味米の生産を継続する。また、需要動向を見極めつつ、消費者ニーズに対応した、売れる米づくりを推進し、米の主産地としての地位を確保する。

(2) 非主食用米

ア 飼料用米

実需者を確保する取組を進めながら、飼料用米の複数年契約の推進、栽培マニュアルに基づく施肥管理の実施により収量の向上を目指す。また、1ha以上の団地化による効率化等の取組により面積拡大を図る。さらに、コンタミ防止のため、当面の間、主食用品種の取組による生産拡大を図る。

また、作付ほ場の稲わら利用、ほ場への堆肥施用を行うことにより、耕種農家と畜産農家の連携強化、資源の有効活用を図る。

イ 米粉用米

該当なし。

ウ 新市場開拓用米

既に、一部の農業者が、日本企業の海外店舗へ輸出用米を供給しており、他の農業者にも同様の動きがある。また、集荷業者でも輸出用米への取組を検討し始めており、主食用米の国内需要の縮小に対応して、複数年契約の推進や、販路の多チャンネル化を目指す。

エ WCS用稲

飼料トウモロコシの高騰などから需要が増加しており、地域の畜産農家との連携により、品質向上を目指す。また、ほ場への堆肥の施用を行うことにより、耕種農家と畜産農家の連携強化、資源の有効活用を図る。

オ 加工用米

需要者間の結びつきをもとに生産体制を強化し生産拡大を図る。

カ 備蓄米

政府の買入入札で落札した数量に応じた取組であり、需要に応じた生産を行う。

(3) 麦、大豆、飼料作物

麦については、該当なし。

大豆については、転作の重点作物として位置づけ、団地化を推進するため産地交付金等を有効に活用するとともに、排水対策や除草対策を徹底することで収量と品質の向上を図る。また、単収不安定の要因である湿害を回避する耕耘・播種技術である大豆300A技術等の導入も推進する。

飼料作物については、耕種農家と畜産農家の連携による安定生産を図って行く。また、ほ場への堆肥の施用を行うことにより、資源の有効活用を図る。

(4) そば、なたね

そば、なたねについては、水田フル活用の観点から、不作付地を有効に活用できる作物として位置づけ、産地交付金を活用し団地化推進、湿害対策を徹底することにより品質、生産性の向上を図るとともに地域の実需者との契約を基本として、作付拡大を目指す。

(5) 高収益作物（園芸作物等）

野菜・花き等については、複合経営の柱となる作物として位置付ける。その中で産地化やブランド化が図られつつある作物としてアスパラガス、ミニトマト、キャベツ、りんどう、小菊を市の重点振興作物に、また、サヤインゲン、スイカ、ピーマン、ねぎ、馬鈴薯、輪菊、なす、未成熟そらまめ、スナップえんどう、セリを準重点振興作物に選定し、産地交付金をはじめ、強い農業づくり交付金や夢プラン事業など、国や県の支援策を活用し、収益性の高い水田営農の定着を図るとともに、団地化による生産性向上でコスト低減を目指す。そして、市場の評価を高めることで主産地化を図り、スケールメリットを生かした有利販売に繋げていく。

(6) 畑地化の推進

長年の生産調整により、野菜等の栽培が定着した水田もあり、今後は水田としての水利環境が十分ではない地区での畑地化を推進して、農地の有効利用を図る。

(7) 景観形成作物

道の駅にしめ周辺の水田で、観光用途で景観ひまわりの栽培を継続している。この取組は、直売所への集客に繋がっており、水田農家の大きな収入源となっていることから助成を継続する。

3 作物ごとの作付予定面積

作物	前年度の 作付面積 (ha)	当年度の 作付予定面積 (ha)	2020年度の 作付予定面積 (ha)
主食用米	5,657	5,628	5,628
飼料用米	119	156	156
米粉用米	0	0	0
新市場開拓用米	2	2	2
WCS用稲	181	200	200
加工用米	433	595	595
備蓄米	374	419	419
麦	0	0	0
大豆	225	251	251
飼料作物	345	359	359
そば	327	327	327
なたね	2	2	2
その他地域振興作物	233	290	290
重点振興作物	112	141	141
アスパラガス	50	64	64
ミニトマト	5	6	6
キャベツ	23	28	28
りんどう	24	30	30
小菊	10	13	13
準重点振興作物	35	50	50
サヤインゲン	4	7	7
スイカ	9	10	10
ねぎ	5	6	6
ピーマン	1	1	1
馬鈴薯	6	12	12
輪菊	0	1	1
なす	6	8	8
未成熟そらまめ	0	1	1
スナップえんどう	2	2	2
セリ	2	2	2
振興作物	70	77	77
振興野菜	62	64	64
振興花き	2	2	2
振興果樹	1	4	4
振興雑穀等	5	7	7
その他振興作物	14	20	20
景観作物ひまわり	2	2	2

4 課題解決に向けた取組及び目標

整理番号	対象作物	用途名	目標	目標	
				前年度(実績)	目標値
1	重点振興作物（基幹作物） 【地域の重点振興作物】アスパラガス、ミニトマト、キャベツ、りんどう、小菊	重点振興作物助成	作付面積	(2019年度) 112 ha	(2020年度) 141 ha
2	準重点振興作物（基幹作物） 【地域の準重点振興作物】サヤインゲン、スイカ、ピーマン、ねぎ、馬鈴薯、輪菊、なす、未成熟そらまめ、スナップえんどう、セリ	準重点振興作物助成	作付面積	(2019年度) 35 ha	(2020年度) 50 ha
3	重点振興作物、準重点振興作物（基幹作物） 【地域の重点振興作物】アスパラガス、ミニトマト、キャベツ、りんどう、小菊 【地域の準重点振興作物】サヤインゲン、スイカ、ピーマン、ねぎ、馬鈴薯、輪菊、なす、未成熟そらまめ、スナップえんどう、セリ	野菜・花き団地化加算助成	作付面積 取組面積	(2019年度) 147 ha 54 ha	(2020年度) 191 ha 63 ha
4	振興作物（基幹作物） 【地域の振興作物】さやえんどう、ほうれん草、トマト（ミニトマトを除く）、えだまめ、メロン、きゅうり、大根、山の芋、スイートコーン、ブロッコリー、白菜、フキ、にんじん、みょうが、ニラ、モロヘイヤ、里芋、菊類（小菊・輪菊を除く）、トルコギキョウ、バラ、ブルーベリー、プラム、菌床しいたけ、タラの芽、葉たばこ、小豆、たまねぎ	振興作物助成	作付面積	(2019年度) 70 ha	(2020年度) 77 ha
5	その他振興作物（基幹作物） 【地域のその他振興作物】にんにく、きくいも、さつまいも、ゆうがお、オクラ、アスパラ菜、レタス、いちご、しそ、カナカブ、ぜんまい、わらび、ウド、マコモダケ、原木しいたけ、アスター、ストック、ダリア、グラジオラス、スターチス、花ハス、りんご、ぶどう、和なし、いちじく、えごま	その他振興作物助成	作付面積	(2019年度) 14 ha	(2020年度) 20 ha
6	大豆（基幹作物）	大豆湿害対策加算助成(300A技術)	作付面積 取組面積 10a当たり収穫量	(2019年度) 225 ha 74 ha 110 kg/10a	(2020年度) 251 ha 81 ha 121 kg/10a
7	大豆（基幹作物）	大豆湿害対策加算助成(明渠等)	作付面積 取組面積 10a当たり収穫量	(2019年度) 225 ha 93 ha 110 kg/10a	(2020年度) 251 ha 102 ha 121 kg/10a
8	大豆（基幹作物）	大豆除草対策加算助成	作付面積 取組面積 10a当たり収穫量	(2019年度) 225 ha 143 ha(推計値) 110 kg/10a	(2020年度) 251 ha 170 ha 121 kg/10a
9	大豆（基幹作物）	大豆団地化加算助成	作付面積 取組面積 10a当たり収穫量	(2019年度) 225 ha 158 ha 110 kg/10a	(2020年度) 251 ha 190 ha 103 kg/10a
10	そば（基幹作物）	そば集積湿害対策加算助成	作付面積 取組面積 10a当たり収穫量	(2019年度) 327 ha 145 ha 54 kg/10a	(2020年度) 327 ha 196 ha 59 kg/10a

11	そば(基幹作物)	そば団地化加算助成	作付面積 取組面積 10a当たり収穫量(そば)	(2019年度) 327 ha 87 ha 54 kg/10a	(2020年度) 327 ha 167 ha 59 kg/10a
12	なたね(基幹作物)	なたね集約化・湿害対策加算助成	作付面積 取組面積 10a当たり収穫量	(2019年度) 2 ha 0 ha 61.01 kg/10a	(2020年度) 2 ha 2 ha 142 kg/10a
13	飼料用米(基幹作物)	飼料用米の生産性向上取組助成	作付面積 取組面積 10a当たり収穫量	(2019年度) 119 ha 94 ha 577 kg/10a	(2020年度) 156 ha 141 ha 610 kg/10a
14	飼料用米(基幹作物)	飼料用米の作業効率化助成	作付面積 取組面積 コスト削減額	(2019年度) 119 ha 87 ha 5,399千円 6,206/10a	(2020年度) 156 ha 104 ha 6,454千円 6,206円/10a
15	飼料作物(基幹作物) 【飼料作物】青刈りとうもろこし、青刈り麦(ライ麦又はエン麦を含む)、子実用エン麦、飼料用青刈り稲、わら専用稲、オーチャードグラス、チモン、イタリアンライグラス、リードカナリーグラス、ハイブリッドライグラス、クローバ、飼料用かぼちゃ、アルファルファ	飼料作物団地化加算助成	作付面積 取組面積 10a当たり収穫量	(2019年度) 345 ha 74 ha 800 kg/10a	(2020年度) 359 ha 81 ha 881 kg/10a
16	飼料作物(基幹作物) 【飼料作物】青刈りとうもろこし、青刈り麦(ライ麦又はエン麦を含む)、子実用エン麦、飼料用青刈り稲、わら専用稲、オーチャードグラス、チモン、イタリアンライグラス、リードカナリーグラス、ハイブリッドライグラス、クローバ、飼料用かぼちゃ、アルファルファ	飼料作物作業集積助成	作付面積 取組面積	(2019年度) 345 ha 166 ha	(2020年度) 359 ha 182 ha
17	飼料用米(基幹作物) (飼料用米生産ほ場の稲わら)	耕畜連携助成(わら利用)	作付面積 取組面積	(2019年度) 119 ha 15 ha	(2020年度) 156 ha 16 ha
18	粗飼料作物等(基幹作物) (粗飼料作物等の範囲は別紙3に定めた作物とする。)	耕畜連携助成(資源循環)	作付面積 取組面積	(2019年度) 527 ha 10 ha	(2020年度) 568 ha 16 ha
19	景観作物ひまわり(基幹作物)	景観作物助成	作付面積 直売所販売金額(8月期)	(2019年度) 2 ha 3,643千円	(2020年度) 2 ha 3,705千円
20	飼料用米・米粉用米(基幹作物)	飼料用米・米粉用米の複数年契約への取組助成	飼料用米 複数年契約 取組面積・数量 作付面積・数量	(2019年度) - 119ha,686トン	(2020年度) 95ha,579トン 156ha,951トン
			米粉用米 複数年契約 取組面積・数量 作付面積・数量	- -	0 ha,0トン 0 ha,0トン
21	そば、なたね(基幹作物)	そば・なたね振興助成	作付面積	(2019年度) 329 ha	(2020年度) 329 ha

※ 必要に応じて、面積に加え、取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定して下さい。

※ 目標期間は3年以内としてください。